

2017年（平成29）度北海道大谷学園連合会高等学校相互評価
自己点検評価報告書

函館大谷高等学校

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

【建学の精神、教育理念について】

Q：I-1 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

A：I-1

親鸞聖人のみ教えに自己を尋ね聞き、自己実現の道を歩む人間の誕生を学園の願いとします。

- 一 かけがえのない「わたし一人」の発見と自覚をうながす教育。
- 一 生まれた意義と生きるよろこびを見いだそうとする意欲と自信を育てる教育。

明治時代、六つの宗旨・宗派からなる函館六和講寺院が互いに宗旨や宗派を超えて、本来の和合僧に立ち返って共同教育事業を起こしたことに始まる〔六和女学校〕。函館の地で女子教育の必要性は時代と地域社会の要請でもあり「いきいきと生きられる人間の誕生」を願ってやまない情熱が建学の志となった。「函館大谷」の誕生は、「六和」の準備事務局をつとめた函館別院を中心として、真宗大谷派に身を置く人々の深い願いにより「こんな人間を育てたい」という情熱が「大谷」を名告る学園を誕生させた。

Q：I-2 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で生徒や教職員に知らせているかを記述して下さい。

A：I-2

学校案内パンフレット、入学式・卒業式の校長・理事長の式辞、挨拶の中で新入生・保護者・教職員に周知できるようにしている。生徒には「生徒のしおり」や全校集会・始業式・終業式等の挨拶で周知を図っている。

教職員には、校長の年度始めの経営方針等で知らせている。

また、平成27年度より教職員を対象に理事長講話を行い、建学の精神・教育理念の再確認の場としている。

Q：I-3 建学の精神、教育理念について、現状の課題と今後の改善計画を記述して下さい。

<p>A : I - 3 理事長講話などの機会を増やし、教職員や生徒への理解を深めていきたい。</p>
<p>【教育目標・学校目標について】 Q : I - 4 建学の精神や教育理念から導き出された、教育目標や学校目標を記述して下さい。</p>
<p>A : I - 4 ※昭和33年、『学園訓・教育目標』は学制改革と同時に時代の流れに即した言葉の一部変更がなされ現在が続いている。</p> <p>学園訓 人生を正しく見て禍福に惑わず真の幸福者になりましょう。 ○報恩感謝～“生かされている自分”の存在に気が付き自然や社会の恵みに感謝しよう。 ○言行一致～自分の行ないに責任を持ち、人格形成に努力しよう。 ○親愛礼讓～かけがえのない“いのち”をお互い尊重しよう。 ○和衷協同～互いに信頼しあい心を同じくして共に力を合わせよう。</p> <p>教育目標 ●人間性～常に相手を敬うことのできる豊かな人間を育成する。 ●自主性～自己の信念をもって自由と責任を体認させる。 ●積極性～人類幸福のための善には積極的な意欲と情熱を培う。 ●協調性～お互いの人格を尊重し他をゆるす態度をもって協調性を体得する。</p>
<p>Q : I - 5 教育目標や学校目標を、現在はどのような方法で生徒や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。</p>
<p>A : I - 5 生徒玄関、体育館の壁への掲示。学校案内パンフレット、生徒のしおり、WEBサイト等に掲載している。また、合同進学説明会、高等学校私学進学フェア等において、各中学校、中学生、保護者等に伝えるようにしている。</p>
<p>Q : I - 6 教育目標・学校目標について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。</p>
<p>A : I - 6 学校行事等で数多く発信・提示しさらに浸透をはかる。</p>
<p>【定期的な点検等について】 Q : I - 7 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目標や学校目標の点検が定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。</p>

<p>A : I - 7</p> <p>定期的な点検は行なっていない。平成11年に「求め、磨き、自ら拓す」という教育目標を設定したが、平成20年より学園訓に沿う教育目標を、との考えで校長判断より職員会議に提案し、平成10年度までの教育目標に設定し直した。</p>
<p>Q : I - 8 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目標や学校目標の点検及びそれらを生徒や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または職員会議がどのように関与しているかを記述して下さい。</p>
<p>A : I - 8</p> <p>教育目標の変更について職員会議に提案し、全員で内容を確認し、理事会へ報告し承認を得ている。</p>
<p>Q : I - 9 定期的な点検等について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。</p>
<p>A : I - 9</p> <p>現時点では、見直し改善は考えていない。</p>
<p>【特記事項について】</p> <p>Q : 1 - 特 この《I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標について努力していることがあれば記述して下さい。また高等学校で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。</p>
<p>A : I - 特</p> <p>あらゆる学校教育の中で、建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標を意識する中で日々の教育活動を行なうことを心がけている。本学園では平成10年度より、“人間大好き”をスローガンとしており、入学式・卒業式等の校長式辞の中で披露している。「みすてず、きらわず、えらばず」、とことん生徒に寄り添う教育を行う事を教職員が心がけ、またすべての存在に感謝の心を持てる人を育てていきたいと、日々の教育活動で心がけている。</p>

《添付書類》A：建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標等についての印刷物・宗教教育シート・その他関係書類

II 分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

Q：II-1 シラバスを作成し、それが実行されているか記述して下さい。

A：II-1

シラバスについては作成していない。各教科において、年度方針を作成する段階で、年間指導計画・月間指導計画を作成している。年5回の定期考査の時点で進度や理解度について、各教科において点検や見直しを行い、修正を加えながら、それに沿った指導をしている。

また、年度当初の授業では各教科担当が、今後の授業の方針や見通し、あるいは評価の基準等についてガイダンスを行っている。しかし、それは各教科担当に任されている部分が多く集団的に取り組んでいるといえる状況にはない。授業の方針や見通しについては教科部会で論議を深める必要があるし、評価の基準についても、新任の教員が多い現状の中、教務部がみえる形で周知・確認をする必要がある。また、総合的な学習の時間を中心に相当数の時間講師の先生方がいる中、より綿密な連絡を取り合い、周知・点検・総括をしながらすすめていく必要がある。

Q：II-2 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。

A：II-2

科目・総合的な学習の時間 漢字検定、硬筆書写検定

科目・情報科学及び社会と情報 日本語ワープロ検定、情報処理技能検定

いずれも履修のみでは取得できず、検定試験合格が必要。

Q：II-3 教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

A：II-3

実用英語技能検定、日本語検定、危険物取扱

当該教科の提起をうけて、各クラス担任を通して受験希望者を募り、希望者を対象に放課後講習を実施している。

資格取得については、資格は就職や進学において確かに武器となるものであるし大切なものである事に間違いはないが、さらに生徒達に資格取得に挑戦するという前向きな方向性をもたせ、達成することによる生徒の内面的な成長についても考えていきたい。

また、いくら資格という「武器」を手に入れても、生徒達の中身（学力）が伴わない中では意味がなく、3年間の授業や講習の中で身につけた本当の実力～進学先、就職先を決定することだけでなく、次のステップで学び続けられる、働き続けられる条件としての実力～との兼ね合いで考えたい。

Q : II - 4 定期考査の結果をもとに、適切な教科指導がどのように行われているか記述して下さい。

A : II - 4

従来は、早期に基礎的な学力を回復させる必要性を感じ、学期末に希望者を対象に講習を行っている教科もあった。また、各教科担当者は考査の結果にもとづいて、特に弱点と思われる分野に焦点をあて、主に低学力者に対する反復学習に力を入れてきたが、全校的・組織的な取り組みとはなっていなかった。

各学期ごとに定期考査後の結果により「1」が見込まれる生徒を対象とする補習・追試をスタートさせ、合格した場合、評価は「2」となる。この取り組みにより、短い期間での学び直しをすることができるようになった。現在では定期考査後の期間が「学力回復期間」とであると明確に位置づけされてきている。今後は「期間の設定」と「内容の充実」をさらにはかっていきたい。

また、「すべての生徒の学力を向上させる」という学校長の経営方針のもと、定期考査後に学力上位の生徒に対しても何らかの取り組みを行う必要があると考えている。今後、教務部からの方針と具体的内容を提起していきたい。

Q : II - 5 生徒の学習状況や評価方法などが、わかりやすく生徒や保護者に説明されているか記述して下さい。

A : II - 5

学習状況においては、各考査毎に学級担任より成績の送付を行っている。その際、学年通信や学級通信等により、学年やクラスの状態を理解してもらえるようにしている。また、各考査後に、成績にもとづいて本人及び保護者に来校してもらい管理職・担任および教科担当者による面談を行っている。それは、主に進級や卒業への意欲を喚起し、具体的な今後の学習方法を説明する場となっている。

入学式後には、保護者を対象とする教務のオリエンテーションが行われ、学習に向かう姿勢・評価方法（とりわけ、授業態度や地道であっても努力を継続させる必要性など）等を説明している。しかし、他の分掌や事務部門からの説明もあり時間的にも限られるため、その1度だけでは保護者に周知するのは難しい面もある。そのため保護者会を年に2～4度ほど開き説明を繰り返している。

生徒には各教科担当者から最初の授業時に教科毎に説明、同時にLHRでは、担任によるレクチャーがなされ、周知の徹底を図っている。

Q : II - 6 総合的な学習の時間が有効に利用されているかを記述して下さい。

A : II - 6

総合的な学習の時間は「オープン選択」という別称で様々な講座を設定している「生きる力をはぐくむ」という目的のもと、そのテリトリーを広く解釈した。主に

芸術の授業だけでなくそれ以上に個性を伸ばしたいと考えている生徒向けの講座や進路を視野にいれた講座、また、資格取得のための講座、さらに高校生活後にも続けられ生活を豊かにする糧とするべく設定された講座など多岐にわたっている。生徒は自分の興味・関心や将来に必要と考える内容にもとづいて自主選択をする。その上でクラス（講座）の編成を行い、指導を行っている。

現在開講している講座は次の通りである。

1年・・・ピアノ、パステル画、陶芸、実用英語、和楽器、写真研究、ペン習字、漢字演習

2年・・・ピアノ、パステル画、陶芸、書道、和楽器、写真研究、合気道、韓国語、漢字演習

3年・・・ピアノ、パステル画、陶芸、書道、和楽器、写真研究、合気道、韓国語、漢字演習

Q：Ⅱ－7 生徒による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

A：Ⅱ－7

生徒による授業評価は難しい側面もあると思う。

生徒による授業評価は行っていない。例えば、「研究授業」を行う場合、「研究授業のための授業」になってしまい、研究授業そのものが形骸化してしまうことがある。同じように「生徒による授業評価のための授業」になってしまっても同じ事がいえる。また、生徒自身が授業そのものに否定的な場合も、出てきた結果の取り扱いや分析に困難な面がある。また教師を批判するための単なるアンケートに留まっているのは実質的な取り組みにしていくのは困難であろうと思われる。

しかし、生徒が今行われている授業をどのように受け止めているのか、理解しているのか等に謙虚に耳を傾け授業改善に取り組むべきであるのは当然のことといえる。

「教師が設定した授業目標について、生徒がどれだけ理解出来たか」ということに特化して生徒自身に評価をさせることで、教材や授業に改善の余地がないかを分析するというやり方をベースに検討したい。

Q：Ⅱ－8 高等学校全体の授業改善への組織的な取り組み状況について記述して下さい。

A：Ⅱ－8

従来、主に教科毎に担当者が連絡・打ち合わせを密にとりながらすすめてきた。とりわけ自主編成教材については、内容や扱い方等について、きめ細かく話し合い改善されるよう取り組んできた。

また、テーマによっては、教科担任とクラス・学年との連携を密にとり、情報を交換しながら、生徒の弱点が克服されるように努力してきた。

平成25年度から

① 入学前学習

入学手続を終了した生徒に対し、国・数・英の中学校の範囲を復習するためのテキストを準備し、春休みにやるべき宿題を課した。そして、入学後の最初の授業で提出させ「生徒がどこでつまづいているか」を早期に把握する参考としている。

② 礎力養成講座

① および授業での小テストをふまえて7時間目に、授業→小テスト→授業→小テスト…という内容の講習を行っている。

③ 応用力養成講座

希望者に対して、応用的な力をつけるべく、7時間目に講座を行っている。

④ 学と英語の授業について、T・Tを導入し授業のレベルを上げつつ、学習の苦手な生徒にも手厚く指導する。

※本校では従来、基礎力が不足している生徒が多く入学してきており、その対応に力を注いできた傾向が強かった。しかし、学力が高い生徒も入学してくるようになってきた時点で、検討をした結果「すべての生徒の学力をあげる」というごく当たり前でオーソドックスなテーマに行き着いた。

これは古いテーマなのか、新しいテーマなのか。私学の特色になり得るのか、なり得ないのか。他の分掌やカテゴリーでもすすめていった場合にどうなのか。興味深いと考えている。

Q：Ⅱ-9 過去3カ年の退学、休学、留年、転学等の数を、次の表を例にして記載して下さい。

A：Ⅱ-9

区分	H26年度	H27年度	H28年度	備考
1年生 在籍数 (5/1)	108名	89名	107名	
内、退学者数	0名	1名	8名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	0名	1名	0名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	108名	87名	99名	
2年生 在籍数 (5/1)	78名	108名	89名	
内、退学者数	0名	3名	3名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	0名	0名	1名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	78名	105名	85名	
3年生 在籍数 (5/1)	100名	78名	105名	

内、退学者数	1名	0名	0名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	0名	0名	0名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	99名	78名	105名	

Q：Ⅱ－10 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者、転学者及び留年者に対する指導（ケア）の現状について記述して下さい。

A：Ⅱ－10

退学者の約7割が進路変更、残り3割が一身上の都合である。具体的な理由は様々であるが、中学校時代の不登校傾向がなかなか改善されない場合や人間関係の悩みや不安から登校できなくなるケースは少なくなっている。もともと不登校だった生徒が高校進学をきっかけに皆勤・精勤で卒業していく生徒も珍しくない。昨年度卒業した生徒の中には、小学校2年生時から引きこもりだったが卒業式までの欠席は病欠1日だけという生徒もいた。

最近の傾向としては、診断はされていないが発達障害・学習障害の傾向が見られる生徒や集団生活不適応の生徒が増えているように感じられる。いずれにしても、生徒・保護者との共通の願いや信頼関係ということを指導の軸としながら、地道な対話を主眼として指導していこうと考えている。

Q：Ⅱ－11 教育課程・学習指導（教務）について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－11

校長より発表される「経営方針」に「すべての生徒の学力をあげる」というテーマのもと、各教科でできるところから取り組んでいる状況である。先生方は「教員としての誇り」をもって取り組んでくれていると思う。今後、教務部がそのセンターの役割を果たし、さらにその内容の充実に向けてカリキュラムの変更も含め検討していきたい。

【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】

Q：Ⅱ－12 生徒指導の年間指導計画が作成されているか、作成されている場合は概要を記述して下さい。

A：Ⅱ－12

別紙・・運営計画

Q：Ⅱ－13 家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着を目指した生活指導がどのように行われているかを記述して下さい。

A：Ⅱ－13

具体的には入学式後に保護者を対象として、今後の生活指導（含他の分掌）について説明する（新生生には別に各分掌からのオリエンテーションの時間も設け説明・周知している）。学期毎に通知箋や学年・学級通信、指導部通信で発信をしている。また、日常的に担任が遅刻などに関わり、家庭と連絡をとって生徒の生活習慣について話し合い、連携をとっている。しかし、母子家庭や共働きの家庭が多い中で基本的な生活習慣の定着を目指した連携が困難なケースも多い。「どのような立場で家庭と連携するのか」という事や「どういう視点で連携するのか」など十分に共通理解を作りあげていくことが課題となっている。

また、昨年度から「メンタル的に弱い生徒」が多く入学してきており、「学年」の取り組みとして入学式前面談を実施して保護者・生徒との関係作りに力を入れてきた。その結果、生徒の状況を事前に知るという面と保護者との連携を早期に構築するという面で非常に効果があったと思われる。

Q：Ⅱ－14 服装や身だしなみ、マナーなどの指導がどのように行われているのか記述して下さい。

A：Ⅱ－14

各担任のHRでの指導及び廊下巡視や教室移動時に各教師が生徒へ声をかけるよう指導している。また、全校集会時に生徒指導部長から服装や集会時のマナーについてその都度注意をする。頭髪の違反については家庭と連絡をとり協力して指導にあたり、改善できるまで登校させない場合もある。

また、学年・学期の区切りごとに制服、頭髪の指導強化期間を設け、全校的に取り組んでいる。学年ごとの指導の温度差を解消し、メリハリのついた指導ができていると思われる。

Q：Ⅱ－15 問題行動の未然防止に関する取り組みがどのように行われているのかを記述して下さい。

A：Ⅱ－15

「問題行動を未然に防止する」というと、例えば「A君はトイレで喫煙しようとしたところ、巡回していた生徒指導部の先生がいて喫煙できませんでした」というケースと「B君は喫煙の習慣があったが高校入学後、先生方や友人との関係が以前より良くなり、授業も先生方が丁寧に教えてくれるので良く分かるし、楽しくなりました。その他にも彼を取り巻く環境が良い方向に変化しました。その中でB君は先生方や友人にも迷惑をかけたくないなあ、きちんと生活をしようかなあと考えはじめ、喫煙をやめました」というケースがある。前者はA君の「喫煙行動」は防げたが、A君の「喫煙問題」は防げていない。後者のように「問題行動の未然防止」を「問題行動を起こす原因をなくすこと」と考えるなら、日常的・意識的にそのような方向性を教職員間で共有していなければならない。それは、普通A君の場合のように「喫煙しようとしている生徒に、喫煙させなかった」ことを「防いだ」とは考えやすいが、B君の場合のように「起こらなかった」ことを「防いだ」とはあまり考えないし、

実感も持てないと思われるからである。現在は、生徒を日頃からよく観察するように、また、変化が見られるようなら学年団や家庭との情報交換等、連絡を取るよう指導をすすめている。しかし、「問題行動の未然防止」は当然、生徒指導のカテゴリーで考えられるが、本来は「問題行動を起こす原因」をなくするという事なので、授業・生徒指導・部活動・家庭環境等も含め、すべての領域で取り組みを追求すべき課題と考える。

Q : II - 16 クラブ活動の現状、生徒会の現状、学校行事（学校祭等）の実施の状況を、その指導体制及び生徒の活動状況を含めて記述して下さい。

A : II - 16

クラブ活動については、体育コース（野球部、サッカー部、柔道部、陸上部、バスケットボール部）を中心にとりわけ運動部の活動が活発で、全道・全国大会に出場する部活も増えてきた。

生徒会は、役員改選の選挙を行わず希望者は全員役員となるシステムにしている。その結果、役員の数も増え、生徒会活動（主に生徒会主催の青稜祭・競技大会・予餞会等）は、以前と比較して、量・質ともに充実してきている。企画・事前準備・実施・総括等ほぼ生徒自らが時間・労力ともに費やし、苦勞しながら行っているが自治的な力量もついてきていると思われる。

Q : II - 17 生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A : II - 17

校長の「経営方針」に「生徒との信頼関係を構築し、生徒の認識を変容させることをベースとして・・・」とある。この方針を全校的に展開するのは実践的には大変困難な面もある（先生方の価値観のどこを一致させていくのか等）。また、日常の生徒指導においても、QUテストの取り扱いにしても学年での温度差は出やすい。この問題を解消するために、今年度からは生徒指導部を中心としてQUテストの実施ならびに分析会議の開催を生徒指導部が中心となって取り組み始めている。

【進路指導】

Q : II - 18 年間指導計画に基づく進路指導が、どのように行われているかを記述して下さい。

A : II - 18

進路指導は、より高く広い社会自立を目指し、外部関係機関とも連絡・指導を受けながら、教育活動全体を通して計画的かつ組織的に実践するよう努めている。

①就業体験

1年生を対象に行う。事業所の意味、作業内容の違い等を理解させ、そこで働く人々の姿を通して職場や実習の理解、就職への意欲・関心を高めている。

②三者面談

生徒・保護者・学校側の三者で、卒業後の進路希望を確認し、進路指導上の課題を明らかにして、相互理解のもとにその実現に向けての解決方法を探っている。

③学校説明会・体験入学等案内

④就業準備講習会

就職希望者に人事担当者や卒業生から、就職活動の取り組み方、企業が求める人材や、社会人としての心構えなどについて話してもらうセミナーに参加。

⑤各種検査

職業レディストテスト・一般職業適性検査

⑥職業講話会

職業試験を目前に控え、新規高等学校卒業生を取り巻く就職環境について理解を深める。

- ・正しい職業観や、職業生活について理解を深める。
- ・企業の求める人物像について理解を深める。
- ・受験の準備や心構えについて理解を深める。
- ・進路決定に向けて目的意識を持った学校生活を送るための一つの指針とする。

Q : II - 19 卒業後の進路への関心を高める計画的な取り組みが、どのように行われているのかを記述して下さい。

A : II - 19

①就業体験

1年生を対象に行っている。事業所の意味作業内容の違い等を理解させそこで働く人々の姿を通して職場や実習の理解、就職への意欲・関心を高めるよう指導している。

②各種検定の取り組み

各種検定に取り組むことで進学・就職への興味関心を高めモチベーション向上につなげている。

Q : II - 20 卒業後の進路に関する情報提供や保護者との懇談が、どのように行われているのかを記述して下さい。

A : II - 20

①進路三者面談

生徒・保護者・学校側の三者で、卒業後の進路希望を確認し、進路指導上の課題を明らかにして、相互理解のもとにその実現に向けて解決方法を探っている。

②進路ニュースによる進路状況の提供

Q : II - 21 進路指導について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

<p>A : II - 21</p> <p>生徒の学力面での変化を的確にとらえ、確実に進学先・就職先を決定していくとともに、生徒にとって「進路とはなにか」というテーマもさらに深めていきたい。</p>
<p>【保健管理・安全管理・個人情報管理】</p> <p>Q : II - 22 事故や問題が生じた場合の保護者への説明や対応が、どのように行われているのか記述して下さい。</p>
<p>A : II - 22</p> <p>事故や問題が生じた場合は、速やかに校長（不在の場合は教頭）に報告する。また、該当の生徒の保護者には事情に応じて担任、または教頭から連絡・説明し、同じ立場で問題に対応することを確認して協力して問題に対応する。</p>
<p>Q : II - 23 生徒や保護者の個人情報の取り扱いについて記述して下さい。</p>
<p>A : II - 23</p> <p>学園の定める「函館大谷学園 プライバシー・ポリシー」に則り取り扱っている。</p>
<p>Q : II - 24 教室や校舎内外の美化・清掃活動がどのように行われているのか記述して下さい。</p>
<p>A : II - 24</p> <p>教室内は生徒、校舎内外は校務補が担当している。</p>
<p>Q : II - 25 健康・安全に留意した生活を送れるような指導がどのように行われているか記述して下さい。</p>
<p>A : II - 25</p> <p>①健康については、養護教諭を中心に教育活動全体を通じて行っている。一般的に通年で行われる健康観察・健康相談の他には下記のような内容を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4・5月 疾病異常者の健康相談、生活指導。 6月 食中毒・感染予防指導 7・8月 夏休みの健康生活指導と健康管理指導 9月 学校祭の救護 10月 見学旅行前健康調査・アレルギー調査 11月 かぜ・インフルエンザの罹患状況調査 室内の換気及び手洗い・うがいの励行 罹患調査 12月 かぜ・インフルエンザの罹患状況調査 室内の換気及び手洗い・うがいの励行

<p>1 月</p> <p>2 月</p> <p>3 月</p> <p>以上の内容に基づいて、生徒・保護者向け「ほけんだより」を発行する。また担任と協力して保護者に直接連絡を取り説明・対応をする場合もある。</p> <p>②安全については各教職員が各所に目を配る。また、近年自転車の乗り方による事故の可能性が高くなってきている。HRでの指導のほか、不定期ではあるが、登校時・下校時の指導を行っている。また、外部講師を招いて「交通安全教室」も行っている。</p>	<p>冬休みの健康生活指導と健康管理指導 罹患調査</p> <p>かぜ・インフルエンザの罹患状況調査 室内の換気及び手洗い・うがいの励行 罹患調査</p> <p>かぜ・インフルエンザの罹患状況調査 室内の換気及び手洗い・うがいの励行 冬休みの健康生活指導と健康管理指導 罹患調査</p> <p>一年間の健康生活の反省</p>
<p>Q : II - 26</p>	<p>災害対策、防犯対策に関する取り組みがどのように行われているか記述して下さい。</p>
<p>A : II - 26</p>	<p>地震・火災の避難訓練を毎年実施。 防犯～事務、教員が来校者プレートを持っていない者への声かけ、何かあれば警察へ連絡を取るようになっている。 また、普段の防犯対策としては警備会社（セコム）を導入している。</p>
<p>Q : II - 27</p>	<p>保健管理・安全管理・個人情報管理について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。</p>
<p>A : II - 27</p>	<p>特になし。</p>
<p>【入試・生徒募集】</p> <p>Q : II - 28</p>	<p>入学選抜の方針、選抜方法をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。</p>
<p>A : II - 28</p>	<p>合同進学説明会、学校説明会、私学進学フェア等、および中学校に出向いての説明会などで、パンフレット・要項等を配布し説明している。管内各中学校には3年</p>

生生徒分のパンフレット・要項等を配布している。

Q : II - 29 広報及び生徒募集についての体制の概要を記述して下さい。

A : II - 29

教務部の業務内容の一つとして生徒募集があり、教務部長と担当の2名で内外の業務をこなしている。外部対応に関しては教頭、また部活の特待生の関係では各部活躍顧問に協力をしてもらう等、場面に応じて各先生方にも活動をしてもらっている。

生徒募集に関わっては、教師や学校が取り組んでいることに「教育的に」自信や誇りをもっているかどうかということが大きい。

Q : II - 30 入試・生徒募集について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A : II - 30

学校見学のための授業は行わず、通常通りの生徒の様子を見てもらう事を前提とした学校見学をいつでも受け入れるという案内を中学校(生徒・教員・保護者)に向けてしてきた。その結果、毎年相当数の中学生が見学に訪れるようになった。その事が生徒募集にどう繋がっているのかの検証はできていないが、「開かれた学校」という意味では良いことかも知れない。しかし「生徒募集的」には両刃の剣の部分もあり得る。いずれにしても、一層教育活動の充実が求められる。

【特別支援教育】

Q : II - 31 特別支援教育への取り組み・考え方を記述して下さい。

A : II - 31

特別支援を要する生徒については、入学前にも入学後にも発達障害等の「判定」を受けていることが分かっているケースは稀であったが、平成25年度入試時の事前相談で複数の中学校から「特別支援を受けていた」「発達障害の判定を受けている」という相談があった。しかし、平成26年度の入試では、またそのような相談内容は0となった。入試段階での考え方は、発達障害の判定を受けているという事と本校がその生徒を指導していくことが可能かどうかは別の問題であると考えている。まして、発達障害をもった生徒の状況が全員異なる事を考えれば、それをもって可否の判定をすることはできず、事前相談の情報、入試・面接での様子をできるだけ総合して判断している。そのような段階であるから、本校の特別支援の体制や取り組みが充分とはいえる状況ではない。しかし、特別支援を要する生徒への配慮や指導は、健常な生徒にも効果的な面があると思われる。現状ではどの生徒にも理解しやすく、どの生徒の「困り感」にも対応しようと努力をすること、そしてそれを相互に研修し教育力量として高めていく事が課題となっている。

また、3年前から全学年でQUテストを実施し、学級・学校生活への意欲や満足度、友人や教師との関係、学習や進路への意欲などについて参考としている。今後も様々な角度から生徒を観察し、集団的に取り組んでいきたい。

Q：Ⅱ－32 特別支援教育について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－32

上記取り組みをさらに集団的・組織的に行う。

【地域活動】

Q：Ⅱ－33 校内の様子（学校や部活動、行事など）を家庭にどのように伝えているか記述して下さい。

A：Ⅱ－33

生徒会の発行する生徒会通信では主に生徒会企画の行事（青稜祭、競技大会、予餞会等）の取り組み状況や内容、感想等を生徒の手を通じて家庭に伝えている。また、各考査結果を家庭に郵送する際、生徒指導部から「指導部通信」、各担任からは「学級通信」により、個々の生徒やクラスの状況や到達点、学校の様子などを家庭に伝えている。

Q：Ⅱ－34 地域などに対して、学校の様子をどのように伝えているか記述して下さい。

A：Ⅱ－34

Q：Ⅱ－24 で記述した内容のほか「学園報」、新聞折り込みのタブロイド版等により、高等学校を含めた学園全体の様子を伝えている。

Q：Ⅱ－35 PTA の活動について保護者にどのように情報を伝えているか記述して下さい。

A：Ⅱ－35

「PTA通信」により、学校への協力内容や学校行事などでのPTAの活動状況を伝えている。

Q：Ⅱ－36 過去3ヵ年（H26年度～H28年度）の生徒による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

A：Ⅱ－36

熊本地震・九州北部豪雨の際、生徒会からの呼びかけで生徒有志による募金活動を相当規模で行った。

日常的には「リングプル集め」「ペットボトルのキャップ集め」という取り組みや

すい内容のものを行っている。今後は「体育コース」があるという特色を活用して、内容を充実させていきたいと考えている。

Q : II - 37 高等学校では生徒の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

A : II - 37

地域活動・貢献、ボランティア活動については、取り組み自体は不十分な状況である。このような活動は「どのような意識・認識をもって生徒が取り組んでいるのか」が、その活動の質の部分に大きく関わってくると考えている。そこを踏まえつつ、身近な地域貢献について情報を提供し、地域と密接な関わりをもつ、地域に支援される・開かれた学校作りを目指したいと考えている。

Q : II - 38 地域活動について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A : II - 38

昨年度は熊本地震、今年度は九州北部豪雨に関する募金活動を生徒が校内外で自主的・積極的なボランティア活動として展開した。生徒達の感覚の良さやエネルギーを感じることができた機会であった。年間を通して定期的に継続していけるボランティア活動の検討し、さらに充実させていこうと考えている。

【図書館等】

Q : II - 39 図書館等の概要について、全体の配置図、蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数、年間図書予算、購入図書選定システム、図書等廃棄システム、司書又は司書教諭の人数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。

A : II - 39

これまでは、本校の図書館の施設・蔵書・生徒の活用状況等は充分であるとは言えなかった。しかし、退職した教員からの寄付などもあり、昨年度から準備を行い、PCでの蔵書管理（ELISE-Egg3）や、AV資料（3）を閲覧可能な視聴覚ゾーンの設置などの今年度から本格的に運用開始した。図書室全体の座席総数は22席程度。今年度の年間予算は215,000円となっており、司書資格を有した教員2名で購入や廃棄を検討している。購入図書の選定については生徒・教職員に役立つものを基本として選定している。廃棄基準に関しては利用頻度が著しく低いものや、内容や表現などが古く利用価値が失われたものとしている。

Q : II - 40 図書館等について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A : II - 40

現状としては今年度より本格的に運用が開始されてきたばかりであるため、課題が

明確になっておらず、年度末の総括で検討されていく。

【特記事項について】

Q：Ⅱ－特 この《Ⅱ分掌》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、分掌について努力していることがあれば記述して下さい。

A：Ⅱ－特
特になし。

《添付書類》B：生徒に配布している教務に関する印刷物・シラバス・授業改善に関する資料・その他関係書類

《添付書類》C：生徒指導に関する印刷物・クラブ活動一覧表・その他関係書類

《添付書類》D：進路の実績（平成26年度～平成28年度）についての印刷物・その他関係書類

《添付書類》E：保健管理・安全管理・個人情報管理に関する書類

《添付書類》F：入試要項・学校パンフレット

《添付書類》H：図書館等の規程

《添付書類》G：地域活動に関する書類

Ⅲ 管理運営（ガバナンスの確立）

Q：Ⅲ－1 理事会は学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－1 良好に運営されている。理事長の下全員一致で学園運営が進められている。
Q：Ⅲ－2 評議員会は理事会の諮問機関として適切に運営されているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－2 評議員会参加率が高く、学校運営に理解を示し、諮問機関として力を発揮している。
Q：Ⅲ－3 監事は寄付行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－3 理事会前には、本部より資料を基に年度の運営状況の説明を受け厳しく監査をし、結果を評議員会にて説明・報告をしている。
Q：Ⅲ－4 高等学校の教育・運営上のトップである校長は、高等学校の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また高等学校に係る教育・運営上の事項はどのような流れで決定し、その流れの中で校長はどのように関与しているかを、できれば校長自身が率直に現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－4 教職員の全員の力を借りながら学校運営を行っていると感じているので特に、教職員が働きやすい環境を提供するように努めている。また、生徒募集において教職員の先頭を切って地域の中学校に足を運び、現在の学校の状況を周知し理解してもらうべく行動をとっている。教育・運営上の流れについては、職員会議を中心に全員で確認しながら物事を決めていく流れで勧めている。職員会議での最終決定は校長が決定する。
Q：Ⅲ－5 管理運営について、現状の課題と今後の改善計画を記述して下さい。
A：Ⅲ－5 特になし。
【特記事項について】

Q：Ⅲ－特 この《Ⅲ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

A：Ⅲ－特
教育環境の改善。

《添付書類》I：管理運営に関する書類

IV 財務

Q : IV - 1 学校法人もしくは高等学校において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。

A : IV - 1

高等学校に於いては、今後5ヶ年の生徒入学生予想数等を基に中期的な経営計画を策定している。

Q : IV - 2 当該年度の消費収支の収入超過又は支出超過の状況について、又は事業活動収支における当年度収支差額の収入超過又は支出超過の状況について、その理由を記述してください。

A : IV - 2

当該年度の事業活動収支における収支差額は25,122千円の収入超過であった。これは当該年度に予定した修繕について翌年度に持ち越したこと等に因るものであり、収支は概ね均衡している。

Q : IV - 3 財務情報の公開をどのように実施しているのか記述して下さい。

A : IV - 3

ホームページに掲載している。

Q : IV - 4 教職員に対して自法人の財務状況を每期ごと十分に説明する機会を設けているか記述して下さい。

A : IV - 4

例年5月の理事会終了後、教職員への財政説明会を実施している。

Q : IV - 5 財務について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A : IV - 5

現状においては大きな課題は無いが、今後、対象人口の自然減に伴う生徒数の減少に因る学生生徒納付金等の減は避けられないことから、有効な生徒募集対策が求められると同時に人件費、経費の抑制を図りたい。

【特記事項について】

Q : IV - 特 この《IV財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

A : IV - 特

単年度における赤字決算を出さないことを前提に予算の策定、執行をおこなうとともに、長期的に持続可能な学校運営をめざし、財務を管理、計画している。

《添付書類》J : 財務に関する書類

V 改革・改善

Q : V - 1	自己点検・評価を高等学校の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているのかについても記述して下さい。
A : V - 1	普段の教育活動について、省みると言うことで非常に大切なことと考えている。教頭が評価を各担当へ依頼し、とりまとめを行っている。従来通りに実施する中で、道内大谷高等学校の相互評価を参考に進めていきたいと考えている。
Q : V - 2	過去3ヶ年（平成26年度～平成28年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配布先の概要を記述して下さい。
A : V - 2	平成28年度よりWEB上で公表している。年度末に職員会議で確認された評価をとりまとめたものを、道学事課のヒアリング時に提出している。
Q : V - 3	平成28年度までに行った自己点検・評価の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているのかについても記述して下さい。
A : V - 3	新年度方針へ向けて各担当部署等全体で活用している。今後も同様の活用を考えている。
Q : V - 4	改革・改善について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A : V - 4	他校の現状を参考に本校において必要なものは取り入れ、また改善をしながら学校運営に反映していきたい。
【特記事項について】	
Q : V - 特	この《V改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。
A : V - 特	特になし。

《添付書類》K：過去3ヶ年の自己点検・評価報告書・その他関係書類